

(別紙 8)

徳島県におけるジビエ利用拡大等のための狩猟捕獲支援に係る計画/評価報告

1 現状の狩猟の状況及び課題、本事業実施の必要性等

令和 6 年度と比較して、令和 7 年度における狩猟捕獲はニホンジカ 2,550 頭
(前年度比 81%) / イノシシ 845 頭 (前年度比 52%) と減少している。

イノシシは、令和 5 年時の豚熱の影響もあるとされているが、ニホンジカ、イノシシ
ともに有害鳥獣捕獲頭数は順調な伸びがあること、高齢化に伴い、山奥に入り、狩猟
を行うことのできる狩猟者が減少していることが推察されるため、県としての継続した
若手狩猟者の育成、及びジビエの販路拡大に向けた施策を考えていく必要がある。

持ち込み狩猟者が前年度と比べて増加 (51 から 59 人) しており、今年度には新規の
処理加工施設が増える見込みがある。

よって、引続き、本事業を行いジビエ利用拡大の為の狩猟捕獲支援を継続する必要が
ある。

注 1 : 直近 2 カ年程度の対象種の狩猟の実施状況 (捕獲数、増減傾向、総捕獲数に占める割合等) や、ジビエ
利用拡大のための支援を実施する場合は、狩猟全体におけるジビエ利用数と傾向を記入するととも
に、現状を踏まえた狩猟の課題、本事業実施の目的・必要性を記入すること。

注 2 : 事業実施後の評価報告においては、当該年度の狩猟の状況を記載すること。

2 取組内容・実績

(1) ジビエ利用拡大のための狩猟捕獲支援

ア 狩猟捕獲経費の支援

指定管理鳥獣名	ニホンジカ / イノシシ
目的・目標	登録狩猟による捕獲を緊急的に支援し、狩猟期間中の捕獲数を増大させる。捕獲個体を速やかに処理加工施設に運搬し、食肉利用に適した方法で安定的に供給させることにより、捕獲個体のジビエ利活用の促進を図る。 目標 : 1,250 頭
支援捕獲数及びその考え方 (算出方法等)	ニホンジカ 980 頭 / イノシシ 165 頭 1,145 頭
実施体制 (受託者名等)	一般社団法人徳島県猟友会
効果	【実績】 令和 6 年度時ニホンジカ 1,027 頭 / イノシシ 234 頭 ・ 昨年度比ニホンジカ 95.4% イノシシ 70.5% となっている。
評価方法	前年度実績との比較
事業費及びその考え方 (算出方法等)	捕獲頭数に応じた積算額を基準とする
その他	特になし

注 1 : 事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に
関する実績や結果を具体的に記入すること。

注2：1の現状・課題等を踏まえ、目的・目標、効果、評価方法等の見込み又は実績を記入すること。
 注3：実施区域の位置が分かる地図を添付すること。

イ 処理加工施設における取組

指定管理鳥獣名	ニホンジカ イノシシ	
目的・目標	登録狩猟による捕獲を緊急的に支援し、狩猟期間中の捕獲数を増大させる。捕獲個体を速やかに処理加工施設に運搬し、食肉利用に適した方法で安定的に供給させることにより、捕獲個体のジビエ利活用の促進を図る。 目標：1,250頭	
実施体制（受入施設名）	美馬市シカ肉等処理加工施設	
	山里のめぐみ	
	民宿うり坊	
	祖谷の地美栄	
	相生野生動物解体処理場(中川食品)	
	鳥獣処理加工施設(阿波ジビエ池田)	
	ししぎ森のお肉屋さん	
	那賀町木沢シカ肉等加工施設	
	木沢シカ肉等加工施設	
	あなんジビエ振興協議会	
	gibier lab 匠	
	穴吹猟友会ジビエ処理加工施設	
実施内容	焼却あるいは埋設	
持ち込み狩猟者数	59名	
受け入れ捕獲個体数（種別）	ニホンジカ 921頭／イノシシ 165頭 計 1,086頭	
廃棄物処分量及び算出方法	17,401.5Kg / 2,116.6 Kg	
効果	【実績】令和6年度時ニホンジカ 1,075頭／イノシシ 244頭 ・令和6年度時点と比較して、ニホンジカは12% イノシシは33%の減少	
評価方法	前年度実績との比較	
事業費及びその考え方（算出方法等）	処理・運搬費用の実費を支払（1施設200万円を上限とする）	

注1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。

注2：1の現状・課題等を踏まえ、目的・目標、効果、評価方法等の見込み又は実績を記入すること。

注3：「実施内容」には講習会等の指導内容、開催回数、参加人数等について、見込み又は実績を記入すること。

(2) 捕獲強化のための狩猟捕獲支援
ウ 狩猟捕獲経費の支援

指定管理鳥獣名	
目的・目標	
支援捕獲数及びその考え方（算出方法等）	
実施区域	
実施体制（受託者等）	
効果	
評価方法	
事業費及びその考え方（算出方法等）	
その他	

注1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。

注2：1の現状・課題等を踏まえ、目的・目標、効果、評価方法等の見込み又は実績を記入すること。

注3：実施区域の位置が分かる地図を添付すること。

エ 処分施設等における取組

指定管理鳥獣名	
目的・目標	
受入施設名	
処分方法	
持ち込み狩猟者数	
受け入れ捕獲個体数（種別）	
処分量	
効果	
評価方法	
事業費及びその考え方（算出方法等）	

注1：事業前の計画では各項目について想定又は期待される内容を、事業終了後の評価報告では各項目に関する実績や結果を具体的に記入すること。

注2：1の現状・課題等を踏まえ、目的・目標、効果、評価方法等の見込み又は実績を記入すること。

3 2の取組による効果や評価と今後の課題等（事業終了後の評価報告時のみ）

高齢化に伴う、狩猟捕獲の狩猟者数の減少により、狩猟頭数に伸び悩みがあるものの、今後県として新規の狩猟者を増やし、解消に向けた取組を行っていく。

併せて、新規のジビエ処理加工施設も増える見込みがあるため、引続き、ジビエの利用拡大推進事業を継続して取り組み、本事業に参加する狩猟者を増やし、ジビエ利用の拡大につなげていきたい。

注：2の取組による効果や取組の評価を具体的に記入すること。記入の際は、特に2の目的・目標、効果、評価方法を踏まえること。

また、評価等を通じ明らかになった今後の課題等についても記入すること。

4 その他

特になし

注：特記すべき事項があれば記入すること。